



光善寺の神明宮から夕焼けを眺めると、シンボルタワーのシルエットが見られます。今年の冬至は12月22日。その日にはイルミネーションの輝きも

若い人たちに語り継ぎたい、
次の世代に残しておきたい。
貴重な話をお届けしますー。

あすへひとこと

いつの時代までも残したい

邑楽町の昔ばなし

冬至

農作業がほとんど終わり、木枯らし吹くようになると冬至がやってきます。1年中で一番昼の短い日です。昔は災難除けのために、屋根に水を掛けたり、魔除けのために屋根のひさしに柵の枝を指したりした記憶があります。今はほとんど行っていないようです。

冬至の日、わが家では特別な料理はないですが、冬至の「とうなす」と言っカボチャを煮て食べます。また、ゆず湯に入ったりゆずを薄く輪切りにして砂糖をまぶして食べたりもします。これらの行事は寒さに負けず健康を保ち、病気になるという縁起と聞いています。

初参り、一家そろって神明宮へ

初参り。元日になると朝5時ごろ起きる。まず、年男（正月の行事を主にする男の人、つまり家長のこと）が朝風呂に入り心身を清め、家の中の神棚と仏壇に供え物の餅やお神酒、うどんなどを用意し燈明を灯し礼拝する。その後、宅地内の稻荷様、井戸神様、便所神様、宝登山神社、高尾山様などに供え物を供え礼拝し、年間の無事と五穀豊穡を祈願する。子どもたちは年男のあとを追うように同様の祈願するのが慣例である。朝食

後は村の鎮守様である神明宮に一家そろって参拝するのがわが家の初参りである。また、光善寺全体として神明宮に集まり、元日祭を行うことになっている。元日は一家水入らずでゆっくり休む。年始回り。2日になると年始回りが始まる。まず、親戚から新年のあいさつ。訪問された家では酒食で接待し、世間話に花を咲かせる。その後返礼の形で訪問された家の人が来て同じような接待をするのが慣例である。親戚が終わると今度は近所の懇意にしている人たちの家同士で同様の年始回りをする。

仕事始め。農家では他の職のような、はっきりした仕事始めの行事は無いが、わが家では6日に山入りという行事を行う。平地林ではあるが、山に入りお神酒、洗米、塩を供え、山野仕事が一年間事故も無く無事に出来るように祈願し、鉋で1、2本の木を切る習わしである。

11日は鍬入りという行事。山入りと同様に畑にも同様の供え物をし、鍬で2、3m耕し、年間の無事な作業と豊作を祈願する行事である。初市についてはあまり記憶が無いが、正月15日頃に現在の本中野西の踏切の南あたりから東へ100mぐらい屋台が並び、だるまや二十日正月のお飾りなどを売っていたことをうっすらと覚えている。

【発行】邑楽町老人クラブ連合会 【編集】あすへひとこと編集委員会
(平成7年3月31日発行「邑楽町の盆と正月(第五集)あすへひとこと」)より



朝日と塔
(中野地内)



Photo 飯野祐司(記録ボランティア)

ひとりごと From editors

▶朝晩が冷え始めるこの季節、お風呂場でのヒートショックが怖い時期。数年前に近所のおばあちゃんもお風呂場。今回の特集をつくるきっかけです。▶わが家では、祖父母の一番風呂は控えてもらっています。まだまだ長生きしてもらいたい。ちなみに曾祖父は105歳まで大往生した長生き家系の私。私も高血圧などの生活習慣病に気を付けます。▶私たちの生活の中にはさまざまなロゴやサインなどのマークがあふれています。マークは瞬間的にその意味を理解させることができ、とても便利なものです。だからこそ意味を知らなければその価値が薄れていってしまいます。▶さて「ORA TOWN」このマークはいいたい何でしょう。広報紙づくり、寒さに負けずに頑張ります。(本澤)

